

# 幼 兒 教 育

第 十 九 卷 第 九 號  
大 正 八 年 九 月 一 日 發 行

## 目 次

幼稚園と小學校との聯絡問題	藤井利譽
岡山市の幼稚園に就て	貞松修藏
分團保育の試み	池田とよ
園兒の水遊び	岡本あい
表情遊戯	土川五郎
子供の爲めに	米山えん
へッセル「わが幼時」(一)	紹介子
雜報	
簡單なる心理實驗色々	谷本富

日 本 幼 稚 園 協 會

## 會 告

○會費御拂ひ込みの節は御名前は初め御入會の時の御名前と御同一になし下され度く、假令ば初め幼稚園名にて御入會、後、個人の御名前にて會費御拂込み等のことなき様必ず願上候整理上甚だ煩雜致し候につき右特に御注意願候

○會費未納は會計整理上甚だ困難致候に付確實に御納付下され度向後萬一御不納久しきに亘り候場合は乍遺憾雜誌發送を停止可致候間左様御含み置願候

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願上候

○萬一本誌不著等のこと有之候折は直に御一報煩し度候

### 本誌定價

一冊 郵稅共金拾六錢 六冊前金郵稅共九拾錢  
拾二冊同金壹圓八拾錢 郵券代用 一割増

### 購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

大正八年八月廿七日印刷納本  
大正八年九月一日發行

編輯兼發行者 倉橋 惣三  
東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木山谷二二四

印刷者 守 功  
東京市本所區番場町四番地

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場  
東京市本所區番場町四番地

發行所 日本幼稚園協會  
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

# 幼 兒 教 育

第十九卷  
第九號

大正八年九月一日發行

## 幼稚園と小學校との聯絡問題

東京女子高等師範學校  
教授附屬小學校主事

藤 井 利 譽

子供は將來直接に大なる社會と交渉をもつ前に、先づ學校で教育を受ける。其學校教育の更に前に幼稚園教育をうけると云ふ事が幼兒の精神發達の過程に於て、誠に必要な事であると云ふ事は既に一般に認められて居る事と思ふ。また幼稚園と小學校との聯絡は學校と家庭との聯絡關係よりも一層密接でなければならぬと云ふ事も充分認められて來た。多數の子供は六歳頃になると、急に文字の意味及び思想の價値を理解して來る。この時代における子供の心的活動は、幼稚園の終り頃及小學校初年級の時期にあつて、漸次に經驗を擴めて行くものである。其故に此兩者の間には、常に聯絡を保つて行かなければならない。其方法としては教育の道を沿ふて、兒童精神發達の段階を歩一歩、漸進的に進めて行くべ

きである。第一階は第二階のの出發點であつて、從て先づ進路の一般的方向が定まつて、幼稚園も小學校も其教育方針は其進路に向つて進まなければならぬ。即ち幼稚園としては教育の次の段階たる小學校一年級に子供を送るに當つて、進路の其段階まで充分に幼兒を導いて來なければならぬ。そこで小學校及幼稚園と云ふものが最善の教育的理想に從つて、教育を行つて行くならば、幼稚園は慥かに其の發達時期にある子供を完全に發達せしめる様に力を盡して、適確に小學校第一學年の準備となるのである。而して次の段階たる小學校は、此發達しつゝある子供一人一人を完成させるための助成を繼續して行く事になるのである。

しかるに、この兩者間の聯絡は、現在の狀態として

はまだ、充分とは云はれない。しかもこの間に幾多の疑問が起り、批難も湧いて来るが、其批難は主に幼稚園教育の方に向つて發せられるのである。こは恐らく幼稚園が最近に、一般教育系統の中に加し來り、而も其れ自身の教育理想を實行しやうと務めて居るからである。丁度昔からの家風があり方針の一定して居る家庭に新たに來た嫁が自分の新しい主義を實行しやうとして一つ一つ批難を受ける様なので、小學校初年級の方は其目的及實行は多年の經驗を経て既に明らかに其輪廓を形成して居るのであるが、此同じ教育系統に加入し來つた幼稚園が獨立の教育所として自ら教育を實行しやうする道程にあるためにいろ／＼の批評も向けられる譯である。

そこで此兩者の關係を如何にすべきかと云へばそれは實に調和にある。しかも此調和とは幼稚園及小學校教育者の各々が有する獨特の理想そのものの妥協を云ふのではない。各時期に於ける子供の發達を最善ならしめるための調和を云ふのである。以前から此兩者間の關係を密接ならしめんがために種々なる問題が攻究せられて居るが其の中で先づ小學校の

側から幼稚園の方に要求する所を見ると、即ち幼稚園を経て來たものと、直接家庭から來たものとを比較する、そして其の優劣を云々するのであるが此研究の結果が何處迄正しいものであるか私には解らない。而しどうもこの比較研究の上に科學的統計的研究に對する基礎が不充分ではあるまいかと思はれる事がある。思ふに小學校長及教師が其の比較研究に當つて有する理想及實驗の方法などは、各地、各人一樣ではない。小學校初年級に對しての要求を過大にする當事者は、其の前にうけた教育、即ち幼稚園に對しての希望も大とならう。又之を實際調査する上でも、單に、學業成績にあらはれたものなどによるとすれば、これ實に其の標準に於てひろく一定不變を望む事は到底不可能な事である。

嘗つて米國教育局に於て調査した結果を見ると、米國各地の視學官、小學校長及第一學年教師の意見に依れば、幼稚園を經過した子供は種々の點に於て有利な成績をあげてゐると斷言してゐる。しかるに、又之に對して少數の反對者がある、例へば幼稚園から來た者は注意が集注せぬとか、忍耐力が足らぬとか、不眞面目であるとか云ふ。しかしかゝる批難

もよく考へて見れば幼稚園時期に正しい教育的影響をうけなかつた爲めであつて、もし子供の最善の發達を眺めるならばかゝる批難は適用されなれと思ふ。熱心に遊戯をなし、自分の選んだ仕事を一生懸命にして居る満六歳の子供は、かゝる見當違ひの批難はうける事は決して願はぬであらう。

しかし、幼稚園の教育は小學校教育の準備として適當であるとしても、又希望として小學校の立場から幼稚園にむかつて注文がある。今、米國の例をとつて云へば、彼地の小學校教育家は次の様に、幼稚園に對して希望をのべてゐる。

(一)手工教授を受ける時に、今一層獨立的活動が出来る様にして欲しい。

(二)作業をする際に今一層靜肅にして欲しい。

(三)入學の年齢の制限を撤廢して、子供の發達に應じて小學校へ送る様にして欲しい。

(四)幼稚園の時期は餘り長くないが宜しい。繰返しをする事は興味を鈍くし、努力なしに働く習慣をつけてしまつてよくない。

(五)話し方に於て、正しい國語の使用を今一層注意して練習させて欲しい。

(六)幼稚園で、今少し讀み書きを入れてはどうであらう。

以上の様な注文があるが此に對して幼稚園側の教育者も黙つては居らない、又小學校に對して希望する。其の一例をあげれば、

(一)小學校に今一層手工を多くして欲しい。

(二)もつと小學校が自由を與へて寛大なる訓練をする様にして欲しい。

(三)小學校でも、移動する事が出来る椅子、テーブルを使用して(米國の椅子、テーブルは固定的なるが多い)遊戯をなしお話を聴く時には坐席を輪狀にする事が出来る様にして欲しい。

(四)小學校は兒童の教育に一層個人的注意を與へる様にしなければならぬ。

(五)作業を今一層創造的にしなければいけない。教師の指圖によらず、自發的にする仕事を多くしなければならぬ。

以上を概観して見ると、幼稚園の教育は小學校の教育に有效なる準備をなすものであると云ふ事は云はれ、幼稚園は此目的のためにも仕事をなして居ると云ふ事は争はれない事である。

扱、兩者各々他に向つての注文は種々あらうけれども、兩者の調和を計るためには、其の互の希望を如何に判断すべきかと云ふ事にある。大體論としては、幼稚園の先生は一層小學校の教育を研究せねばならず、小學校の教師はまた幼稚園の仕事をよく理解して幼稚園の教育方法を今一層小學校教育の中に導入する様にせなければならぬ。また幼稚園及小學校の協議會も開かれる様にしたい。また事情の許す限り小學校一年級は幼稚園の保姆がそのまゝ子供を持ち上つて教へ、一方に小學校の教師が幼稚園の保姆を實際經驗して見る事も必要である。父兄會を開くにしても、合併して開く事などもよいと思ふ。

而して、教育法の改善としては、小學校に、今少し手工を澤山入れて教授法を一層自由な組織のもとに行ふ様にし、教室の設備なども、やゝ幼稚園的につくり、椅子、腰掛も自由に移動が出来る様にした。また一年生の學級人員を餘程少くしなければならぬ。米國教育者の多くの人は、小學校の一學年は三十名を適當とすると云つて居る。

幼稚園の側から小學校教師に對して批難の大なる

ものが一つある。それは小學校一年級を受持つ教師には、どうも母性的感情マタニティ・フィーリングが缺乏して、餘りに先生らしくいかめしいと云ふ事である。もしかかる事が事實であるとすれば、如何に方法の上で聯絡を云々した所で、教師の人格そのものにかかる缺點があるとすれば、これ實に他の何物よりも大なる聯絡上の妨げと云はねばなるまい。

この外向聯絡上必要な問題としては、米國あたりでは、幼稚園と小學校の一年二年生（即ちブライマリースクール）の視學は同一の人がやつて居るが、これもよい事であると思ふ。彼地のある教育家はまた幼稚園と小學校との間に中間學級を設けて聯絡をはかる様にとの意見をのべて居るが、今日一般の傾向はかかる必要は認めない、寧ろこの二つを結びつけて、恰も一つの學校の如くに考へ、一人の視學官が之を監督指導する事を適當とするのである。現にポストン市ではこの理想を實行してゐる。

以上は唯現在に於ける小學校、幼稚園の聯絡を如何にすべきかと云ふ事であるが、將來幼稚園教育に携はるるものの教養上、また考ふべき事がある。即ち

師範學校教育の改善と云ふ事である。これ迄我が國の師範學校では、保育法に就て多少其の理論並に實際を研究して居る事であらうが、今一層この幼稚園教育の研究を進め、即ち幼稚園と小學校とは繼續的教育の系統の中にあるものであるとの意義に於て、師範教育の學科課程及實行を進めて行かなければならない。

要するに幼児の發達の上に自然的に四才頃から八歳頃迄の繼續的發達或は其發達の割合、或は興味心的能力などは極めて明瞭に理解される事が必要で、これを今日の師範教育に於てはこの教育時期の連續

## 岡山市の幼稚園について

——岡山市に於ける講演——

當市に幼稚園は八つありまして、縣立一、私立一市立六で、市立は何れも各尋常小學校に附設して居ります。各園には一人の主任保母をおき、その上に一人の園長をおきまして、全市保育の統一を謀ります。そして園長は一週に一日各園に勤務することになつて居ります。園兒の指導は勿論保母がいたしま

を切り放してしまつて考へて居る事はなからうか。六歳以前とか六歳以後とか云つてわけてしまふ事はよくない。子供の變化して行く時期は曆できめることは出来ぬ、専ら心理的に年齢を考へなくてはならぬ。

幼稚園が小學校と切り放す事の出来ない關係を有して居る以上、其の連結的發達に必要な教育上の方法の實際は、今後益々研究して行かなければならぬ。これについても英國で行はれてゐるインフハントスクールの教育法などは大に參考すべきものであると思ふ。(談話……文責記者)

市視學 貞松修藏談

すが、經費支出其他市との關係などについては、各小學校長並びに主任保母協議の上夫々處理し、保母任用につきて採選は園長及び校長連署の上内申することになつて居ります。

現在市立幼稚園六ヶ所の總幼兒定員は一千四十人(この内には九月より開園する内山下校附設幼稚園

の百六十名を含んでをります)で、前年度の九百二十名に比べて百二十名の増加は内山下に新築したためであります。

一方よりは餘裕あるやうにも考へられますが、六校の内深抵は、もと幼稚園の目的を以つて建てたものでなくて、官署の古いものをこれにあてたため、設備が最も不完全でありまして、各園共に常に満員になるのであります。して入園願書の受付日時の順序によつて入園を許可してをります。入園の際に必ず校醫が身體検査を行ひ、合格せるものを入園させることは勿論であります。

次に經常費として、本年度は一二六〇三、八九圓にして、幼兒一人につき、一二、一一圓、保育科五五圓(一ヶ月五十錢)約七千圓は市の負擔であります。七年度は、六一〇五圓(九百二十人に對して)六年度は、五五〇〇圓(九百二十人)にして、これを比較しますれば節約してをつたやうであります。ある點より言へば、餘りに節約減し過ぎた感があります。保母の待遇等も悪かつたのであります。

八年度は、七、六年度よりも幼兒數百二十名を増

加も致しましたが、經費は殆んど二倍になつて居ります。物價騰貴も經費増額の一原因でありますけれども、職員の時手當として、昨年十月より他市立學校職員同様に次の通りになりました。十五圓以上の者に 七圓。十五圓未満の者に 五圓

本年四月小學校と同じく次の通で、 三十五

圓以上 三割五分 三十五圓未満 四割

二十圓未満 四割五分 十五圓未満 五割

と改めました。これも計算の結果餘程増額して居ります。

其他昨年四月小學校職員の俸給國庫負擔により優遇せられたとき、夫れと同率の増俸を行ひ、何時も

經費豫算に於いては均等の取扱ひを致して居ります

本俸について舉げますれば 八年度 五二三

五圓 保母平均額一七、八圓 七年度 三九

三三、六圓、同、一四、六圓 六年度 三九六

〇圓、同、一四、〇圓。その他年末賞與としては、

平均月俸の五割にして、俸給の多寡によらず出勤日數に應じて。これを給與することになつて居ります。

然し以上は他都市の保母の俸給及び、小學校の俸給にくらべますとまだ低いものでありますから、ま



すま優遇の道を講じなければなりませんと思つて居ります。

他の地方には私立のものが多いかかはらず、當市では各小學校に附設して、公立幼稚園としてどうしてこんなに盛になつたかといふ原因については私も當市に就職以來他地方に出張して不思議に思つたのであります。それにつけては、一昨年吉備保育會で話した様にも記憶して居ります。

市立幼稚園として、明治二十八年四月に、深抵、弘西、旭東、清輝が認可されました。各部の定員は不明であります、總ては五百名でありました。

しかし、その前年度三月三十一日には、市立幼稚園は全部廢止となつてをります。その原因は、經費の都合上よりおこつたので次の様なものが残つてをります。

明治二十七年三月二十八日 主務 河村 恕一

學務掛

市立幼稚園廢止之議當市會に於いて決議相成候に付左按を以て認可之義縣知事へ具申可然哉相伺候也

案第九六號

本市各尋常小學校附屬幼稚園客年四月小學校令御施行に伴ひ繼續維

持の議開申七月一日より開園罷在候處經濟の都合に依り本年度限り廢止致度候御認可相成度明治二十五年十一月本縣令第五十八號第十六條により此段具申候也

年 月 日 市 長

縣 知 事 宛

本月二十九日付第九十六號具申尋常小學校附屬幼稚園廢止の件許可す

明治二十七年三月三十日

岡山縣知事 千坂高雅輝

そして公立幼稚園は廢止となつたが、父兄の熱心によつて、私立幼稚園として繼續せられました。二十八年四月市立幼稚園となつたのであります。その後數年間廢止の議もあつたやうですが、市民の輿論も確定し出石小學校の新設に際し幼稚園附設せられ、各小學校に幼稚園を附設することは定則となつたのであります。また、父兄の熱心なるために、始め内山下小學校は單置の高等小學校で後に尋常小學校を加へましたが、附設幼稚園がなかつたので、父兄より屢々請願せられ、その結果今年より開園することとなつたのであります。

これについて本市幼稚園の功勞者としては、清輝幼稚園の山田氏、旭東幼稚園の高木氏にして、三十九幾年に渡つて従事なされてをります。山田氏の話

によれば、同氏が職間に二千人以上同園を修了したものがあるといふことであります。

當市に於いて、今日の盛況に到つたのは、これらの人の御熱心と、父兄の援護とによることであります。その起因は、全國共通であります。

即ち明治九年十一月に東京女子師範學校内に、其附屬として開設せられて、各地方でも設置を企つやうになりました。公立では、大阪の模範幼稚園及び鹿兒島の女子師範學校附屬幼稚園設立せられ、十七年二月に當市の師範學校附屬幼稚園が設けられたので、當時附屬小學校訓導藤貞範氏が大阪の模範幼稚園に倣つてしたのでさうです。

これよりさき民間では、早く就學させやうとする父兄の熱心から、學齡未滿の者が小學校に入學し、學齡兒童と同一の教育を受けるものが少くありませんでした。明治十六年には其數が全國では、十一萬五千七百三人に達し、全國小學校兒童の二十四分の一を占めてをたつたのであります。よつて十七年文部省では、學齡未滿の幼兒は總て幼稚園の方法によりて保育すべきことを訓令し、小學校に附設することを許されたのであります。

前述の師範學校訓導藤貞範氏は、東京女子師範學校の實習科を採用して、熱心に幼稚園教育の研究に従事し、當時師範學校の附屬としたのみでありませず本市川東郡旭東に同氏は自身に私立の幼稚園を設置したのであります。其年月は記録がありませんが、明治十八年末であつたやうであります。是が當市幼稚園の濫觴であります。次の書類は旭東小學校に保存してあります。

御 届

私立川東幼稚保育場之義は從來進藤貞範設立に候處今般木村虎次郎外十九名之共立として設置仕度候依て双方連署を以て此段御届申上候也

明治二十一年一月

岡山瀧西中島町

木村虎次郎

同門田邸

進藤貞範

岡山縣知事 千坂高雅殿

岡山縣指令學第三〇二號

岡山市西中島町

木村虎次郎

外二十名

本年四月三十日付願幼稚園設立の件許可す

明治二十一年六月二十二日

岡山縣知事 千坂高雅 囑

此外明治十九年に現今旭東幼稚園主任保母高木氏

に對しての俸給辭令書様のものが保存せられて居ります。實に進藤貞範氏は本縣幼稚園の創建者にして本市幼稚園の父であります。本縣幼稚園は明治二十四年四月に縣立一、市立四にして幼児數の多いことは、我國に於いて第三位でありました。大正三年に出石に、また本年内山下に新築されて市立は六つとなつたのであります。二十四年より二十七年までに於ける事は、書類がないから明瞭でありませぬが、市立幼稚園は以上の様にして今日に到つたのであります。

本市現在の就度兒童數は、一千七百乃至八百であります。その内一年又は二年保育を受けたものが(二年保育を受けるものは幼兒數の殆ど四分の一に當る)一年に殆ど半數あるのであります。それで保育兒童の小學校に於ける成績を調査するに極めて恰好の位置にあるのであります。

即ち身體は身長、體重、胸圍はたしかに保育兒は非保育兒に優れてをりますが、強健、中等、薄弱の等位は非保育兒が、保育兒に稍優れて居ます。一回の調査では固より精確でありませんが、餘りよい成績ではありません。

學業成績の優良なることは全市受持教員の意見の

一致するところでありまして市内の某學校に於いては、左の成績を示して居るのであります。

保育見平均點 非保育兒平均點

國語 九十七 八十

算術 九十 七十

にして手工、圖畫、唱歌等の成績は曾て幼稚園でしてをつた事でありますから、言ふまでもありません。

入學當初に於きまして、言語明瞭、發音正確、語彙比較的多く、五感の發達よろしく、色彩を辨識する能力進歩してをり、自己の町名、父母の氏名などは全部の者が知つてをりますし、二十以下の數の唱へ方等一人も誤りませず、算術教授に數の分解、綜合に極めてたやすいそうです。次に訓練上におきまして、教師の指揮をよく守り、學習上にも極めて好都合でありますとの事です。

學業成績、訓練上の成績は、既に團體生活に馴れて居るためかすぐれたものが多くありますが、克己心が乏しく、我儘な兒童があります。舉動は敏捷を過ぎて、動もすれば、亂暴な者があり、早飲み込みで、徹底しない傾がある兒があります。唯一二年間の調査では不十分でありますから、尙ほ十分調査を要することと信じます。(談話……文責記者)

## 分團保育の試み

東京女子高等師範學校  
附屬幼稚園保育部

池田とよ

分團保育！ 幾度も伺つた言葉でありながら、尙  
それでも何となく自分には遠い、手の届かぬ空の星  
見たやうな氣がして、よいにはきまつて居るが、先  
づそれは美しい理想と祭り込んで、實際にやつて見  
ようと、切り込んで見なかつた。

子供が部屋に入る時は全體が一緒に入る、庭に出  
る時は全體が一緒に出る、部屋が満員である時庭に  
は寂莫の感がある、庭が繁昌する時、部屋には机も  
椅子も暇そうに退屈そうに、淋しそうに、置かれた  
まま動きもしない、ガランとしてゐる。かくして何  
もかも全體一緒である。それで、

□子供はいつも必要以外の友達が餘りに多いの  
で、どうも落付いて遊ぶ事が出来ない、のどかに遊び  
たくても偶には喧嘩もしなければならなくなる、玩  
具の奪ひ合ひもしなければならなくなる、餘計な競  
争も起る。と云ふ風で、どうしても、しんみりと或遊

びに没頭して、じつくりと、周圍から何の妨害も受  
けずに思ふ存分遊ぶと云ふ事が困難な場合が非常に  
多い。此ソワ／＼した、落付きのない、上かすりの  
生活が毎日繰り返して行はれるとしたならば、子供  
の性格にどんな傾向を與へるであらうか、そこに考  
へ到る時、どうしても心配せずには居られない、傾  
向は單に傾向だけに止まらぬのである。勿論子供  
中には左程影響を受けぬものもかなりにあるには相  
違ないが、影響を受ける人が、たつた一人あつても  
それは決してよい事では無い。

□先生は先生で、一人で三十人も四十人もを一緒  
に遊ばせると云ふことは、一通りの骨折りでではない  
殊に従來の普通のやり方で、何か計畫のもとにさせ  
ようとする時は、なか／＼大變である先づ始める前  
に全體の子供を一寸は静めなければならぬ、子供の  
手に持つてゐる草花を預つたり、顔を先生の方に向  
けさせたり、手を膝に置かせたり。一方を静めれば

一方が騒ぎ出す、次から次へと騒いで廻る、静めて廻る、はてしがない、困つた末は、其騒ぎを唱歌にでも引寄せて二つ三つ歌はせて、やつと纏めると云ふ風、こんな事に使はれては唱歌も随分迷惑するであらうと思はれる。ともかくもこうして一通り纏めるに先生は大分骨が折れる、一生懸命の努力が必要である、漸く静めて何か始めたとなると、何とか、かんと云つて子供は騒ぐ、三人や五人ならば少しも差支へのない、むしろ自然の事であるが、三十人四十人となると、先生も黙つては居られなくなつて、氣の毒がりながら禁止に可なりの骨を折る、實につまらない事である。こんな事で先生は疲れて仕舞ふ。無駄骨折である。實際靜かに考へて見ると、幼稚園で仕方なしに發する無意味な禁止の言葉は子供が犬勢すぎるが爲である場合が可なりに多いと思ふ、その爲に先生の大切な精力を浪費すると云ふ事は實に惜しい事である、勿體ない事である。

□又先生と子供との關係から云つても、一人の先生が、いつも大勢の子供に同じやうに淺く、廣く、觸れると云ふことは如何にも物足りない感がある、子供としても毎日淺く先生に觸れるよりは、何日か

の間に一日、或は一日の中に何時間か深く、思ふ存分にぶつかつて方が、どんなに幸福だか知れない、其時はじめて先生と子供との眞の親みは味はれる、幼児教育にも最も大切な人格と人格との眞の接觸は實に此時に於てである。

かう云ふ風に全體を一緒にする場合は、子供の方面にも、先生の方面にも、又子供と先生との關係に於ても困る點が多い。どうかして之等を救ふ方法はあるまいか。全體を一緒にして置いて、しかも、もつと子供に本眞劍な、じつくりした、しんみりさを味はせたいと思つても、それは可なりに困難な事である、然しどうかして少しでもそうさせたいと云ふので、種々な方法が考へられるであろう、其先生の人格の力を、案出せられた方法と、熱練とに依つて可なりに高い程度まで其目的を達する事が出来るけれども、これは子供としては多少不自然な生活をする場合を作る。のみならず先生としても非常な、しかも餘計な努力を要する場合が少なくない。此不自然な生活や、餘計な努力をしないで此目的を達し得る方法があるならば、それに越した事はないと思

ふ。ここに至つて、とう／＼「兎に角、やつて見ませう」と、全園擧つて分團保育の入口を覗いたのは此五月の中旬であつた。

幸にも此幼稚園には保育練習生の方が居られるので、此場合非常に好都合であつた。

先づ各組に於て、其子供を先生の數だけに分けて三或は四の小さい集團を作つた、其各集團の子供の數は七人から十人位であつたが缺席者が毎日あるので實際は、それよりも少なかつた。遊戯の様なものでは全體でする場合が多かつたが、其他は凡て各集團を單位とした、勿論鐘なんか打たないで勝手にいろいろな時間にするのである、初は精密な時間割の様なものを作つて、そのなす時間と場所と事を定めて置いて、それに依つてした。藤棚の下、クローバーの庭、東屋のもと、小山の麓、木立の蔭、裏庭の畑のほとり、花壇のそば、堤の上、遠征しては本校の庭と云ふ風に比較的靜かな他から成べく邪魔の入らぬ落付きのよい場所を撰んで各其本陣を定めるのである、机を持ち出すのもある、椅子だけのものもある、中には蘆を敷くのもある。此所に一まとゐ、彼所にも亦一まとゐると云ふ工合に小さなまとゐが幾つもの

／＼可愛らしく集まつて何だかをして居る、又他には自由に駆け廻つて遊んで居る五六人もある、砂場に汗を流して電車ごっこをして居る一群もある、遊戯室にはピアノの音がゆかしく響いて居る、唱歌の軟かい聲も聞えてゐる、部屋の入口の戸をそつとあけて見ると、此所にも五六人が一生懸命に何だかをして居る。靜肅を注意する爲に部屋の入口に「參觀謝絶」の札さへ掲げられる事がある。此時大人は勿論子供でさへも妄に其部屋に入ることを互に達慮するのである。

此靜肅に關係のある事であるが、此幼稚園では從來子供に廊下を駆け廻る癖がある、しかも靴を履いて居るので其音は大したものである、其爲これ迄靜肅を破られる事が多かつた、駆けさせまいと止める、暫くは駆けぬが、やがて又駆け出す、子供として駆けると云ふ事は無理からぬ事でもあると思ふ大人の目前の同情から、つい約束が弛む、子供はどうしても駆け廻る事を止められなかつた、がこう駆け廻られては一方の折角の苦心も水の泡である、又子供の作法としても廊下と部屋だけは駆けない方がよい、一時は苦しくとも習慣となれば何でもない事であると云

ふので此頃廊下と部屋は駈け、ないと云ふことを子供と堅く約束した、駈けた場合にはどしどし注意した時々忘れると見えて駈けてゐる、「某さん」と云へば「ああさうだつた」と云つた様な顔を舉げてにこ／＼しながら止める、早くと思ふ時にも駈けないで少し俯向加減に急ぎ足に歩いてゐるのを見る時には實にしほらしい様な感じがする、此頃でも駈ける人が時々は勿論ある、殊に年の小さい人はそうであるがそれがいかに耳に響くのを見るとそれだけ周圍が静かになりかかつて來たのであらうと思はれる。

先づかう云ふ風にして分團保育と廊下を駈けぬ事との二つを毎日々々繰り返して居る内に先生も子供もだん／＼と其状態に馴れて來た。初めはとにかく定めた通りに小さく分けると云ふ事にのみ務めたので、其方法が未熟な爲、時には不自然な點も随分あつたし、木に竹を繼いだ様な變な所もあつた、又いろ／＼な準備に可なり混雜もした、そしてそこに或一種の物足なさを感じたが兎に角分ける事が毎日の保育の常態となつた。先生は所謂「管理」と云ふ方面の無駄骨折がすつかり無くなつた、子供を静めようとか、纏めやうとかそんな方面に精力を浪費する必要が無くなつたのでいかにもゆつたりと深く子供

に接する事が出来る。子供は自然的に餘念なくしんみりと遊ぶことが出来る。勿論時によりては子供がどうしても落付き得ない場合もある、先生がまごつく事もある、全く失敗に終る事も澤山にある。しかし大體として頗好結果である。實際静かな部屋や、朝露の輝いた、しつとりした庭で、幾つも小さい子供の小さいまとゐるが何か一生懸命にして居るのを見る時、そこに一種のけだかさや輝きを感じずには居られない。幼稚園全體が何となく物静かで、子供の數が少なくなつた様な氣持がする。

ここ迄になつて來ると、こん度は今迄に何となく感じて居た物足りなさに切り込んで見たくなる、兎に角此習慣を作るために分團保育を計畫的にすると云ふ事は當然の順序ではあるが、其れについて或點に物足りなさを感ずるのである。即其集團の作り方である。子供が勝手に友達同志で遊んで居る時、自然に作られた集團は實に理想的なものである、仲間と場所と事とを全然自由に撰擇して、全然自己から出た遊をして居る。此中には不自然もなければ矛盾もなく、したければする、よしたければよす、何もかも絶対に子供自身の者である、そして子供は全く

本真劍に遊んでゐる。私共のなす分團保育の集團もどうかして斯かる性質のものにしたい。しかし實際馴れない内は砂遊に熱中して居る子供を何でもかでも畫方の組に連れて行つたり、おばさんごつこに夢中になつて居る人達をとんでもない粘土の組に呼んで來たりして不自然なまともを作らせてゐる。此場合子供は大抵は其提供せられたものに對し相當の興味を持つ様であるが、然し子供が各自の興味を基礎として自ら作つたそれとは大に其尊さを異にして居る。それで子供が自ら此理想的なまともを作つて居る場合、其子供に對する其日の保育の全計畫を潔く打ち捨てて其遊を繼續させて行く様に注意したいと思ふ。それと同時にかかる理想的な機會を捕捉する他に計畫的に分團保育を行ふ場合も、せめて其集團の作り方を全然先生のみ計畫とはせず子供に興味に基いてして見たいと思つた、それで余りよい方法とも思はないがまづこの様な事をして見た即子供が朝登園した時、「これ／＼の中は何をなさいますか」と各兒に撰擇させた、そして普通其同種類のものを集めて各集團を作つた、かうなると子供は「撰ぶ」と云ふことに興味を持つて來る、「先生今日は何と何とがありますか、僕粘土がしたいなあ」先生私

けふは昨日のあれをします」と云ふ風になつて來る今日の事ばかりか明日の事まで定めて歸る人もある或日出勤の途中、電車を降りるとすぐに子供に逢つた顔を見るが早いか「先生私けふはあの團扇を剪ります」と、もうちやんと考へて居たらしい、又中には「私某さんとお飯事をします」と云ふ風に遊の種類と其仲間とを撰擇する人もある。かくして出來た集團は全然大人の計畫のみに依つたものに比して少しは自然的のものに近いものでは無かるうか。先生が保育上の或特別な計畫を設定して其れを分團的に行ふ事も勿論大切な事であるし、又或時は最後に述べた様な意味の集團を作つて見るのもよいかと思はれる

以上日頃の保育上の失敗と、分團保育についての淺い經驗の概略とを記して見たのである。しかし之は相當な大人の數と、相當な場所と、よい氣候との三拍子が不充分ながらも揃つた場合の試みであつて、冬枯の吹き荒む冬の日、降り續く五月雨の頃などには、なか／＼に困難な計畫である。又一人で多くの子供を預つた場合、果して此分團保育が實行されるものであらうか。されるとせばどれ位の程度にまで出來得るものであらうか。

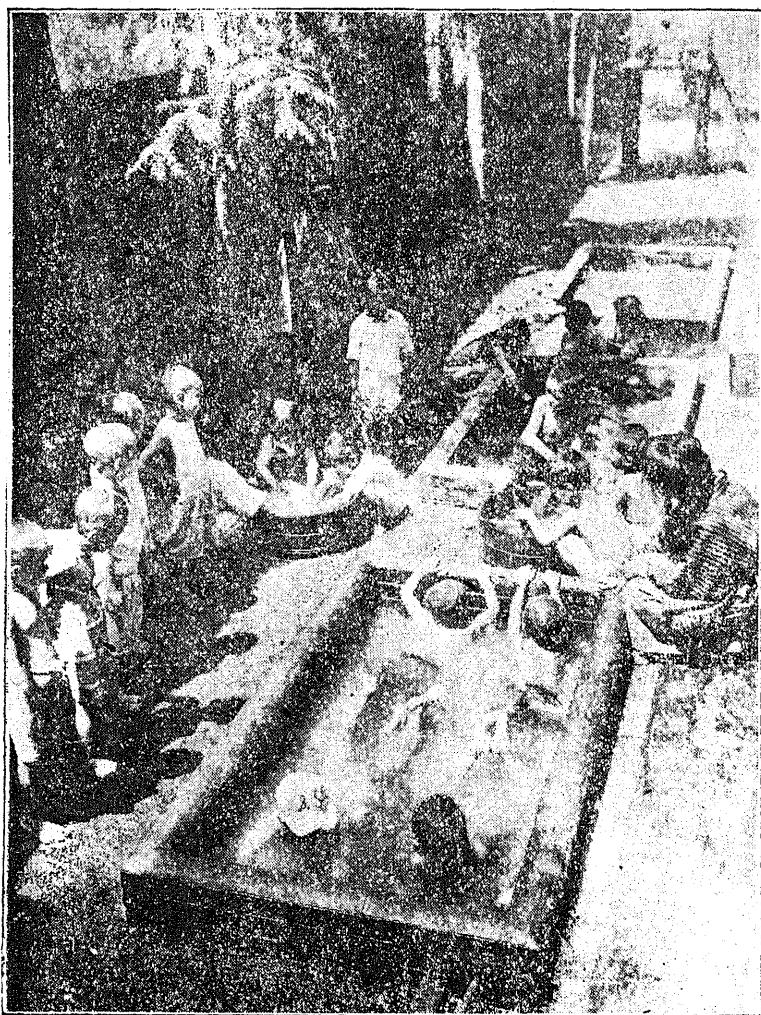


夏季に入りて園児の遊戯も自然と範圍が狭くなり活動も自ら減じて行くものから何か身軽く涼しく愉快に遊ばしめる事も哉と考慮したる結果自然の要求に従ふにこした

# 園児の水遊び

京都市  
日影幼稚園

岡本 あい



事はないと思ひ兩三年前から水遊びを始めました。場所は幸砂場用として周圍は煉瓦底はセメントで堅め長方形の廣さ半坪深さ一尺五寸位な池三つあるを試に一個利用して水をたへ又は鹽等を用ひて全園児を十

五六人づゝに別ちて遊ばせました。

子供の服装は用意として簡單なるシャツとサルマタとを持ち來らしめてそれを着更へしめるやうに仕ます濡れても差しつかへなき故思ひきつて活動が出来るのであります。始めの一ケ年は鱧や目高を入れて網ですくはせましたが子供は興味を以て一生懸命に掬ひ上げますから翌日になると鱧は浮き上つて皆死で仕まひましたから夫れは畑のこやしにいたしました。毎朝續いて百目づゝ入れました。毎日死んで居るので可愛想になり子供に得心させて止めました豫め準備して置いた玩具の水鐵砲や水車や舟浮人形如露バケツ等を貸與へました男子は自然水鐵砲を使ひ女兒は如露みバケツにて植木に水やり水撒又は盥の中で手拭やハンカチの洗濯の眞似事をして遊んで居ました。が昨年の水遊には女兒でも水鐵砲を好み、男兒は始めの中は玩具を使つて居ましたが後には大膽になりて水中にとび込み泳ぎのまねをする者が出來て來ました所が吾もくゝと競ひて泳ぎ出し保母も少しは心配致しましたけれ共中止することが出來なくなり保母も大膽にかまへて其自然の様子を見て居りました。此の間約二十分位でした。子供は此位大變

興味あることは又とあるまいかと感ぜられる程でありました。それで本年も七月十一日から始めました。無論水は水道を引いて溫度も攝氏の十六度乃至十八度位とし時間も天候に依りて早めたり後らしたり日々の溫度を定めて行ひます。

男兒は最早や水遊びと云ふよりは泳ぎの稽古と云つた様に玩具等はそつちのけで一生懸命に泳ぐ眞似をするのが面白く保母も引き入れられ多少なりと泳ぎを教へて見んと思ひました。保母が先きに子供の兩手を持ちやり體を水中に腹匍にならしめ足を上げて相交に水を敲くやうにせしめ體を浮くやうに注意し時々手を放しますとおどろき側につかまる其の間自然に手の使用法も起るならんと考へてそれを繰り返して行ひます。又は縁を持たせて前の通りに自分で行はしめます其の手を放された瞬間水におぼれやうとする拍子にあはてゝ縁につかまること、それが最も面白く感ずるらしく競つて續けて行ります。女兒には未だ思ひ切つて水中に入れるとは致しません植木の水やり又は洗濯位にとゞめて居ります。是れに就いても注意を要するとは子供の健康です充分保母はそれに留意して居ますが朝會前に各室に入りし

際、こわたり子供の顔を見ますと大抵は分るもので  
す、又家庭へも豫ねて水遊びを希望せぬ向きは子供  
に其の旨申し出すやう通知してありますから身體方  
面に就きては家庭と共に留意して居りますから今日  
迄で其れがため何等悪い影響を認めません。

尚ほ來年には規模を大きくして小さいながら遊泳  
場の如くしつらへてウキ袋等も備へて見度いと思つ  
て居ます。

暑い〜と云ふ中に何時しか秋になりました、

威勢のよい子供達と元氣のあふれた先生と、

夏休み後の幼稚園は、

どんなに楽しい事です。

どんなにうれしい事です。

### 雨の街

小止みなしに雨が降つてゐる。犬が二匹私の前を駈けて行く。眞  
直に降る雨の音を蛇の目傘の下できながら静かな町を私は行く。  
電車も、自動車も、荷車も、通るには通つてゐるが今日は何となく  
音もたてない様に思はれる。折角、昨日近所の子供達が畫いておい  
た石蹴の圖面も、今朝はすっかり洗はれてしまつた。飯事しかけた  
縁臺其上に運ばれた煉瓦片や草の束がベタ〜に濡れてゐる。道を  
遮ぎつて「ヤンケンポンよ」と大聲に呼びながら飛んでゐた子供達  
の姿も今日は見えない。電柱の下に塵かくしに集まる女の兒、腕ま  
くりに威勢のよいボール投げの子供も、今日は居ない。雨が往來か  
ら子供を追ひやつてしまつた。本當に今日は子供の影はこの賑やか  
な町に一つも見えない街路にはたゞ急ぎ足に大人が行き過ぎるばか  
り。

雨が子供をすつかり家の中に追ひ込んでしまつた。子供の居ない  
街路は全く淋しい、あやのないものである。(八、八、一三)

# 表情遊戯

土川五郎

## 〇夕立

大正幼年唱歌  
第六集

圓形二列にて圓心に向く

一ピカく。兩手を左右稍上にあげ目の高さにて、

交叉し次に開き又交叉して開く

いなひか。兩手にて目を覆ひ顔を稍、前下方に向

く

り。にて元位に復す

ころくなりだす。足踏四回顔を左右に一回斜上

に向く

かみなり。耳を蔽ふて稍下を向き小さくなつて二

歩後退す

は。にて元位に復す

おとろき。急速に左足一步左へ踏出し直ちに右足

を引き付く、此時體前方左側下にて拍手一回

あわてゝ。前と同じ動作を右方にてなす

垣根を。上體を前に屈し兩手を體前下方より高く

兩側に開く此時左足一步前に

くどり。右足を前へ引き付くと同時に兩手を兩側

に下し直立す

鶏逃げて。右向をなし兩手を側舉し鳥の飛ぶ如く

して前進

とんで。前に同じく前進

來る。にて右廻轉し兩手を側方に下ろす

コケココツコとにびげて。前と同じ動作にて左方に

前進

ゆく。内方に向き兩手を側方に下ろす

ニザワく木の葉が。兩手を體前斜にあげて掌を向

き合せ、左へ右へ軽く振る

ゆれたして。前と同じく手を振ると同時に上體を

左右に傾く

バラく降り出す。兩手を體前にて上より下へ

(掌を下にし)左と右と交互に上下す

此時前進四歩

大雨に。兩手を同時に上より下へ側方より上に廻はしつゝ後退す

八つ脚。左手斜左上に(五指を開き掌を外方に)左足一步左に

ひろびで。右手右足前に同じ

感張つて。全身の重みを左足に托し右足を伸ばし

左足膝を少しく屈す

をつた。全身の重みを右足に托し前と同じくす

大きな蜘蛛が。前同様左右に

にげて行く。急速に軽く右向駈足をなす

スタコラサツサと。足をつまんで、兩脇を屈し兩

拳を握り胸部にとり、足踏しつゝ兩脇を交互に左

右にふる

にげて行く。駈足をなす

### 鬼ヶ島 (第五集)

圓形にて圓心に向く

#### 一 昔々大昔。拍手四回

鬼が。左手にて刀の鞘を握り右手にてつかを握る

島をば。左手は其儘に、右手にて刀を抜き體前斜

右上にあぐ

征伐。右足を右へ一步。兩手にてつかを握れるまゝ、頭上に(大上段)振りかぶる

に。にて右足一步踏み出すと同時に兩手を振り下ろす

日本。右足を引き左脇を曲げ左手を右腹前にて握る

一の。右脇を屈し右手を右肩前にて握り恰も竿を握れる如くす

旗立て。旗を稍上に持ち上ぐ

て。にて右側に突立つる如くす

勇んで出て行く桃太郎。右向前進し終りに内方に

向く

犬猿雉を。右食指にて左より右へ三度に指す

友にづれ。前進す

その兵糧は、前進し糧はにて左腰部に兩手をあて

(掌を腰部につく)

黍團子。右足一步左へ右手(食指拇指にて丸を作り)

り)を右斜上に突き出し手を下ろし子にて左足の

膝を屈し右手を伸し左手(丸を作り)を左へ突き出し

元位に復す

山をこえ。兩手を體前に(手の甲を向き合せ)

持來り其儘上より兩側に下ろす（掌は側方より下向となり兩側に下ろす）足はつま立て、下ろすすゝめく。左手を腰に右手を右上に打ち振りて指揮す（食指を出し四指は握る）ること二回海をこえく。兩手を胸部より前方へ次に兩側方へ（掌を下にし）すゝめく。前に同じ

二鬼の大將。内方に向き

赤鬼は。右食指にて前方を指し元位に復す

とてもかなはぬ。四歩後退

金棒。上體を稍前に屈し兩手を體前にて金棒を握る如くす

を。にて右肩上に振り上ぐ

ガラリとすてゝ。右足一步踏出し棒を體前に投げ

## 子供の爲に

只一つ一つの單なる細胞が集つて一つの肉塊が出来た、そしてそれが人間の型をして生れ出て来た、そこに何等の苦しみもないそれは一個の人形に過ぎ

出す如く

角を折り。萎れたる様子にて前進す

兩手を。左拳を前下に（肘を少しく曲げて）ついて。右拳を同様に

あやまつた。上體を屈し元位に復す

家來の鬼も皆出てゝ。食指にて前方左より右へ四回に指す

あたまを下げて。掌を下に兩手を前方に出し柔かに二回少しく下ぐ

あやまつた。上體を前屈す

桃太郎様に。四歩後退

降参く。上體前屈二回

桃太郎軍勢。兩手を振り勇ましく前進す

萬歳々々。拍手して終りに兩手を舉ぐ

廣島三原女師  
附屬幼稚園

米山 えん

ないと、考へて來ると只たわいもないのであります然し然し其の肉塊、其の細胞、細胞内の分子、分子中の原子、其の一個を考へて見ますと實に何千年來

の奮闘努力の歴史をもつて居ます、我々の祖宗の血です祖先の肉です、そしてそれは尊い生の流を連続させて居ます、なんで人形あつかひに致されませう。まして自己の生命を無限に存続させ、發展させて行くべき強い慾望と必然の責任とを持つて居ます私共に於てはこの兒の爲、日夜、心膽を碎いて其の養育に其の教育に盡すのは當然の事と存じます。

然るに私共は往々餘りに無雑作の世の親達を見せつけられて心を寒くするものがあります、唯單にわけもなく土人形を弄ぶ感を持ちます、嚴肅な。慎重な、生真面目な、真劍な、用意があるかどうかと云ふ事にいつも疑ひたくなつて來ます、世間普通に生れ出るものに對する用意は何でせう。やれ襦袢よ、初着よ、寢具よ、乳母車よと形にとらはれ眼の先きの事に追はれ又追つて居ます、これも大切な事です忘れてはなりません、然し大きな大きな生をつゝむ襦袢なり初着なりが完全に用意されたいと存じます、唯ぼんやりと眺めて居たのでは駄目です、世の父親なり。母親なりが充分に目覺めなくてはなりません。特に母親は受胎の時から其の詳細を觀察して將來に及してやらなくてはなりません、その胎内の反射的

運動から始まつてこの兒の成年までの苦心の日誌文が世に幾等ありませうか。血と肉とを焼き盡す愛撫のあとを記したものが世間に幾等ありませうか私の狭い見界では不幸にして未だ日に接しません、よしあつたにせよ唯八年間か山十年間を書いたに過ぎません、兒の爲に畢生の事業としてやつた母親を見出したう思ひます。

唯育てる事、愛撫する事は誰も世の親にひけは取りますまい然しその十年、二十年の苦心と悶えとをかきつらねるその熱愛を私は望みます。

その兒が二十、三十、になつて其の母親の眞紅の血潮で染め出された自己の成長史を見せつけられた時どんなに感謝させよう、邪道に踏み入らんとする時いかに兒を反省させるでせう實にこの日誌こそその兒の爲孫の爲又その孫の爲に無限の感化を與へて行く寶典であると思ひます。世界の尊き何物にも代へる事は出來ますまい。私はこんな精神の結晶體にはなんの説明も形式も要項もいらぬと思ひます、只その熱烈さ、苦心さが十分に味はれるものであつたらよいと存じますが然し考へましたもの、條道だけ次にかゝげて見ませう。名前は愛撫日誌としました

幾分理想的かも知れません。

愛撫日誌の要項。

(一) 生れ出づるまで

一、母體に關して、

1、身體の健康狀態

a 惡疽の有様

c 胎動の狀態

c 其他

b 諸機能の狀態

d 食物の好惡

11、精神作用

a 感情の狀態

c 嗜好

b 知的活動の狀態

d 其他

二、環境よりの刺戟に關して

1、家庭内の刺戟

a 夫

b 家族

c 其他

11、社會よりの刺戟

a 親族

b 他人との交際

c 社會の出來事

111、自然界よりの刺戟

a 風景

b 空氣

c 溫度

d 濕度

e 天災、地變

(二) 出生

一、誕生

1 出生の年月日時

2 父母の年齢

二、出産狀態

1 出生兒につき

2 母體につき

3 其他

三、其の經過

(參) 成育誌

一、初生兒

1 哺乳狀態

3 發育狀態

二、嬰兒期

1 生齒狀態

3 步行狀態

5 知覺

7 偶發事項

三、幼兒期

1 身體發育狀態

3 感情狀態

5 行爲

7 父母の感想(或は其他の人々)

2 便の狀態

4 五官狀態

2 匍匐狀態

4 感覺

6 言語の發達

8 父母の感想

2 知的狀態

4 性質及其の變動

6 偶發事項

四、兒童期



1 身體發育狀態

2 知的狀態

3 感情狀態

4 行爲

5 交友

6 性質及其の變動

7 偶發事項

8 父母の感想及訓試

(其他の人々)

## 五、少年期及青年期

1 將來の計畫

2 煩悶に對しての解決

3 處世法

a 父母の過去の反省より將來に及す

b 先哲の名言

c 其他の經驗

4 其他

此の日誌を記す上の用意は最も慎重で又十分の理解の結果を筆にしたのでなくてはなりません其の兒の全生活を赤裸々に記したものであつて又それが一生中の反省、奮闘の資となるものでなくてはなりません、言言、句句、父母の心臓を貫いた愛の血潮でなくてはなりません、よし前途迷霧に包まれて進路を失ひかけた時、失意の結果自己の生を斷絶せんとした時たよるに父母居ませず、冷き墓石をいだいて空しく涙を垂れる時この愛撫日誌を靜かに繕けば父母の聲はしなくても何事かを語るものでなくてはな

りません、行くべき處をはつきりと教へてくれる羅針盤でなくてはなりません、

この日誌はいつ子供の手に移すかそれは父母の膝元を離れて獨り他人の中へはいつて行く時與へたいと思ひます、然し必要の時は度々出して訓誡の資としたいと存じますそして全部を開く事が悪ひ様でありましたら(例へば生れ出づるまでの處)そこだけのは一束にして假に綴じて置きます。

自己をより大きく、より太く、永遠に存続さす爲にはその連鎖である子供の爲に特別の計畫がなくてはならぬと存じます。

### ○ヘツベルの自傳について

次に紹介して居りますヘツベルの自叙傳は、自傳とは申しませんが、彼のケーテが自分の傳記に「ディヒシツクワントワールハイト、フウソトマコト」と云ふ標題を附けました様に、何處迄が筆者ヘツベル自身の傳記であるかは、種々説もありませうが、それは免に角、私は此の中に畫かれた一人の子供を限りなく面白く思ひました。(譯者……(T.K))

紹介子

この一篇は、かの獨逸の文豪、フリードリッヒ・ヘッセルの自叙傳の中「わが幼時」の部分であります。文學上は云ふ迄もございませんが、私共子供の相手を致して居りますものにとつて如何にも巧みな子供の描寫に共鳴する所が多いと思ひますので、茲に拙譯ながら、皆様と共に此の面白さを味ひたいと思ひます。(譯者)

私が生れた時、私の父は小さな家を持つて居た。

小庭がそれに接いてゐて、よく實る梨の樹や其他の果樹も二三本植えてあつた。家は三つに分れてゐてその中一番居心地のよい廣い室を、私達か占領したが日當りのよいのが何より結構であつた。あとの二つは人に貸した。その中で向ひの方は左官屋のクラウスオール並びに、僱傭の妻君が住み、庭をまわつて裏道にあたる方は、勞働者の家族が借りて居た。同居人と云つても、私が知つて以來少しも變らないし、また私達を可愛がつてくれる事から云つても父や母と同じ様であつたので、私達子供はこの人達が

初めからこの家に付きものである様に思つて居た。

私の家の庭は他の家の庭で取り圍まれて居た、一方の側には、剽近者の指物屋の庭がある、この人は私をよく揄擲つたものだが其後、自殺をした、何故あんな死に方をしたのか、私には今だに分らない。嘗つてごく小さい頃に私は高慢ちやくれた、顔をして垣根越しに「隣の伯父さん、お寒うございます」と云つたこの指物屋はこれを面白がつてわけても夏の暑い日などには、この言葉を幾度も繰り返して飽くる所を知らない程であつた。

指物屋の庭に接いて坊さんの庭があつた。これはまた高い板圍ひがしてあつて、子供には見下す事が出来ない。しかし、裂け目や割れ目から覗く事は充分出來た、わけても春時、見知らぬ美しい花が咲く頃この庭園には澤山の花があつたので、覗き見するのが誠に嬉しかつた。唯坊さんが此方をデット視ていやしないかと思つては震えて怖がつた。この坊さ

んには私達子供は無限の崇敬を拂つてゐた。と云ふのは一方に彼の眞面目な峻嚴な、憂鬱病にかかつた様な顔付きとあの冷やかな眼付きのためにもまた他方にはその身分また敬意を起させる様なその職務のためであつたらうと思はれる——。例へばよく棺が私の家の側を通り過ぎる時に幾時もの坊さんが棺側についてゐるので——。この坊さんのよくやつた事だが時々子供達の遊んでゐる方をチツト見るすると私達はすぐに遊びを罷めてしまつて、コソ／＼と家に這入つてもふのが常であつた。

も一方の側には古い井戸があつて私の家の庭と隣の庭との堺になつてゐた。樹の枝に蔭されて、實際に深く、また木製の屋根はボロ／＼で青黒く苔蒸してゐるこの井戸、私は考へる度びにゾツとする。

また、私の庭は牛乳屋の庭に接してゐた。——この牛乳屋は牝牛を持つてゐると云ふ譯で近所近邊の親分株になつてゐたが。——そしてまた靴皮匠ナカシヤの庭に堺してゐた、この靴皮匠と云ふのはあらゆる人間の中で最も不機嫌な男で、私の母はよくかう云つてゐた、あの人は今、一人の人間を喰ひつくして更にもう一人の人の頭を掴まへやうとしてゐる様な顔を

してゐる」と。

以上が私の幼年時代に呼吸した雰圍氣である。これは決して狭いとは思はれないと思ふ、何故なら當時の印象は尙今日に迄も及んでゐるから。今でも尙あの機嫌のよい指物屋が垣根越しに私を見てゐる。今でも尙あの意地の悪い坊さんが板圍ひの向ふから私を睨んでゐる。今でも尙私は、あの人樽の様に肥満した牛乳屋の亭主が、懷中無一文ではないと云ふ印にポケットに両手を入れて表口の所に立つてゐるのを見る。今でも尙私はあの靴皮匠が黄疽の様な黄色い顔をして、子供の頬が赤いと云つては腹を立て、わけても彼が世辭笑ひをした時の、一段と物凄しい顔を思ひ出す。今でも尙私は、太い梨の木の下で、小さなベンチに腰かけてその木陰に涼みながら、陽の照る梢から、虫にくわれたために早熟した實が落ちて來はせぬかと待ち設ける氣持になる。今でも尙あの井戸、今にも屋根が落ちそうで釘付けにしなければならぬと思ふあの井戸が、一種の凄しい様な感じを吹き込んで來る。

私の父は外では快活で打解けるが、宅では非常に真面目な性質であつた。自宅では滅多に口をきかないのでなかく分らなかつたが、世間ではお伽噺をするのが上手いと云ふ評判であつた。父は私達が笑つても、また何か聴いても五月蠅がつた。之に反して彼はまた永い冬の夕べには黄昏時に讚美歌を歌つたり、又、俗謡などを私達と一所になつて歌ふのが大好きであつた。

私の母は誠に氣立てのよい、一寸性急な人であつた。あの銀杏をむいた様な眼は、輝きがあり、人をホロリとさせる様な柔しさをもつてゐた。何かにひどく感動すると幾時でもすぐに泣き出すのが常であつた。私は母の秘藏で、二つ年下の弟は父の秘藏であつた。その理由は、私が母に似、弟が父に似てゐる様に思はれたからで。しかし(後に分つた事だが)實際は似てはゐなかつた。

両親は家内に食物のある間は誠にお互に平和に暮してゐた。それが不足すると——夏には滅多にないが多くは冬、仕事がなくなる時によく起るが——時々ハラ／＼する様な場面が演ぜられる。

私は種々の想出の中で、この場面ほど怖いと思

つた事は少ない。それ故、私はこの時の事を何にも云はずに過ぎる事はどうも出来ない。私のごく幼少の頃の出来事の中、私の想ひ出すこの場面の一番初めのもものは、恐らく二才でない迄も三才の時に起たらしく思はれる。私はこの話をしたからとて、私が両親に對しての神聖な記憶を穢す事にはなるまい、何故なら、かうした場面を何か特別な事でもあるかの様に見る人があるとすれば、その人は、未だ、下層社會の何たるかを解せぬ人であるから。

私の父は仕事に出かけると大方はその出先で飯を食へさせて貰ふ。その時は、私達は自宅で、世間なみに、普通の時刻に晝飯を食べる事が出来る。が、時として父がその晝飯を日給の中から差引かれる事がある。すると私達の晝飯は抜きになつてしまふ、たゞ飢え凌ぎに十二時頃、ごく簡単なバターパン位を啣つて置く。小さな所帯では一日二食で辛棒する事は安價な遣り繰りであつた。かう云ふ日には私の母は自分の欲望を充たすためよりも、子供達を喜ばせるためにポツタラ焼を焼いて呉れた。私達は非常な食欲でそれを食べつくした、その時に「今晚お父さんが、何たべた?と聞きても云つてはいけないよ」と

云ひ含められる。父が歸つて来る。私達はもう寢床に入られれてグッスリねてゐる。何時も父の歸る頃にはまだ私達は起きてゐるので、今夜は妙だと思つたのか、それとも家のきまり（父が歸る迄子は起きてゐると云ふ）を犯したと思つたのか、其邊は私はよくは知らないが兎に角、父は私を起して、私をあやして、抱きあげて、そして聞いた「お前、今日何を食へたか」と「ポツタラ焼!!」と私はねぼけて答へた。そこで父は母を叱る、母は何とも云はずに父の夕飯の仕度をするしかし「よくも喋舌つたね、覺えておいでよ」と云ふ眼付きで私を睨んだ。翌日になつて、また父が留守になると母はだまつて鞭でビシヤ／＼打つた、これは彼女の言葉を借りて云へば身にしみる様な教訓であつた。他の時に、母はまた嚴格に「正直を愛せよ」と教へ込んだ。よく人は矛盾が悪い結果を來たすだろうと考へるかもしれないぬ、しかし私のこの經驗ではそんな事はなかつたし、又、廣くかゝる心配はないだろう。何故なら、人生は矛盾だらけで、人の本性はこれに對して適合する様に出來ておるのであるから。然し實際私はも少し大きくなつてから、否或は全くしない方がよいと思ふ一つ

の經驗を幼少の時にした。と云ふのは父の望む所と母の望む所と一致しないと云ふ事であつた。

私は子供の時には餓い經驗はしなかつた（大人になつてからはよくしたが）之に反して母は甘んじて私達の食べるのを傍觀してゐなければならなかつた。そうでないと私達子供が飢えてしまふから。

### 三

幼年時代の一つの特長とも云ふべきは實に家畜の末に至る迄あらゆる人、あらゆる物が子供に對しては機嫌よく、親切にすると云ふ事であるこれは全く子供に向ふと「安心」と云ふ感じを得られるからでこの感じは敵の世界に（大人の世界に）一步を踏み入れればもうすぐ消えて再び歸つて來ないものである。

わけても下層社會ではこれが實際である。子供が戸口で遊んでゐると、水汲みに又は買物に向ふ側へ一寸出掛ける隣の女中が、きつと花の一輪位は呉れる。果物賣の女は、籠の中から、梨とか櫻桃とかを一つ位は投げて呉れる。それ所ではない、有福な旦那手合は小錢を呉れる、子供はそれで上等な白麵麴を自分で買ふ事が出来る。運送屋は子供の傍を通

りが、りにはワザ／＼鞭をヒュー／＼ならせて面白がらせる門附けの男は二つ三つ面白い曲をきかせて呉れる。何にもかう云ふ事をしない人でも、少くとも、子供に會ふと「名は何と云ふ」「年は幾つだ」位は聞く、さもなくばニッコリ笑顔を見せて呉れる。

——尤も子供は小ザツバリとして居なければいけないが——。かうした親切は私にも私の弟にも豊かに與へられた。取分け私の家の同居人——特に所謂隣り人で——この人達は嚴格な父としてよりも殆んど母の如くに大切に思はれた。

夏には、この人達は仕事があるから少しも私達の遊び相手になつて呉れない。けれども夏は私達の方でも朝から晩まで、起きるから寝る迄、花園で蝶々追ひかけたりして遊び相手は充分あつたので、困りはせなかつたし、冬時、雨の日や雪の日に、子供は家に閉ぢ込められてしまふ時、この人達が全く私達のいゝ遊び相手になつて呉れた。日傭人のおかみさん、——名はメタと云つて巨人の様な、やゝ前屈みの身體で、舊約聖書の中にある人の様な、黄銅色の顔をしてゐる。私はこの顔を思ひ出す度に後に見たあのローマ法王のジクステニシユの會堂にあるミ

ケルアンジセロ作のクマ人種の神巫の事があり／＼と眼の前に浮んで來るが——メタさんはいつとも、よく頭に赤い布を捲きつけて、なか／＼暮れやらぬ冬の夕方に庭をぐるりとまはつて私達の所へやつて來て、火燈し頭まで遊んでゐた。(註、北歐の冬は日が暮れてから薄明りの時が長く續く。)この時にメタさんは魔女の話とか、幽霊の話などをしてくれたが、全く上手で、誰から聴くよりもこの人の口から云はれると實に感じ入る様になつた。私達はまたこんな事も聞いた、あのハルツ連山の高峰ブロックス山の事、地獄の日曜日の事、くだらなく見える箒の柄も物凄じ意味を持つ事、さては眞黒な煙突の穴(これは何處の家にもあるものだが私の家にもあつた)には怪しからぬ仕方で地獄の親分が大勢その乾分を養つてゐるのだなどと云ふ事、全くこの事は私達子供に恐怖心を吹き込んだものであつた。

また實際私はあの評判のわるい磨夫の娘の話の印象はいまだにのこつてゐる。それはこの娘が夜な／＼猫に怪けたが、しかし、とう／＼自分の悪い行は適面の罰を受けた、と云ふのはこの怪けた猫がある時、夜の散歩をしてゐた時粉塵場の若者に迂散臭

く思はれて、とう／＼この若者のために前足を切られた、そして翌日この娘は手のない、血だらけの赤い腕をして寢床にねてゐたと云ふ事でこの話を聞き初めはどうなる事かと思つたが罰せられたと聞いてやつと安心した。

燈火がつく頃になると、私達は隣りのオール伯父の所へ出掛けて行つたが、その室はメタの室の空気がより實際はるかに居心地がよかつた。隣人オールは幾時も機嫌がよい男で氣に入らぬ事がないでもないのに不愉快氣な顔を私は一度も見つた事がなかつた。

お腹が空いてゐても、否彼にはそれ以上重大事らしく見える煙草のない時でも、私達が行くといつでも何かしら歌つたり、口笛吹いたりまた躍つて見せたりして呉れた、そしてあのいつも機嫌のよい、否いづも満足そうな顔は今も尙私の眼のまへに空の星の様に輝いて見える——實際オールの顔と云へば目立つて真赤な鼻があつて、私の母の話によると、私がある時オールの膝に抱かれて搖られてゐて、ふと見上げた時、その鼻を大變欲しがつたと云ふ事であるが。またオールは何時でも先の尖つた、晒した縁無し帽子を被つてゐた。星の顔に見えるると云ふ形容

は當らぬ様だが、しかし私には實際そう立派に思はれるので——。

嘗つては、オールも土地でたゞ一人の左官の親分で、二三十人の乾分の職人をつかつてゐた時であつたがその職人の多くは、後に思ひ上つて親分の様な氣になり、そしてオールの仕事を奪つてしまつた。

當時よく噂にも上つた様に、彼とても、もしも、あんなに度々球戯場へ通はず、もし好きな酒を控えたなら氣樂な餘生を送る様に貯金も出来たであらうに。けれども、オールの様に不幸福の日を忍ぶ人に對してはまた都合のよかつた頃にたゞ無頓着に享樂したとて咎めるにも及ばない。私はオールの事を考へ出すとホロリとしない譯には行かない、それはまた私には無理もない事なので、彼は嘗つてある「歳の市の贈物として、私と私の弟とに太鼓やラツバの玩具を呉れた、それをオールは玩具屋から大骨折りで借りて來たので、この僅か許りの借金も彼の貧乏なために幾時迄も拂へず、私が大分大きくなつて生意氣盛りの頃、彼と並んでその玩具屋の前を通つた時に、まだ催促を受けて居つた。子供を樂しませる事にかけては彼はなかく／＼の事を案出した

實際また子供を喜ばせるには氣立さへよければ充分であるからして、この點で彼は成功したのであつた私達にとつて一番うれしかつた事は彼が私達と一緒に机のまはりに腰かけて、一本の白墨を手にとつて水車、家、いろいろの動物その外何やかや畫いて呉れる時であつた。その頃彼はよく滑稽な思ひ付きをしたが、今も何だか私の耳にはそれが響いて來る様な氣がする。

どんな時でも、私達が仲間入りをしないとオールは決して本當に楽しむ事はしなかつた。ことに日曜日毎に、朝説教をききに行つて歸つて來ると緩くりと晝飯を初める。この時には彼が盛であつた當時を偲ぶために所謂油の様に澄んだウイスキーをのみ、煙草をふかす。このウイスキーは指拔ゆびひきに一杯づゝ私達子供も無理にのまされる私達が呑まないとオールも味がない、つまらないと云ふので。勿論この飲料は子供には適當のものではなかつたが、しかし分量が極く僅かなので健康に害がある様な事はなかつた所が私の父はこの秘密を知つたのでこの日曜日の宴會に行つていけないと禁じてしまつた。これはオールにとつて誠に氣の毒な事であつたが、私は、また

この楽しい時はそれでも止めはせなかつたと云ふ事を附け加へて置かなければならない。唯其れ以來はこの宴會をごくヒツソリとやつて、且オールは「この宴會の後には道で父さんに遭はない様にする事だ、キッスをされる機會をつくつてはいけないよ、すぐやつてる事がわかるからね」と切に勧めた。實は父にさとられたのも父が私の唇の所へキッスをしたためであつた。

折々、オールの家には冬になるとまだ未婚の二人の兄弟がやつて來た、この人達は多分は田舎にブラついてゐて無用の長物らしいが、オールは三人をいつも機嫌よくこの家に迎へて、どんな小さなパン片でもありさへすればきつと二人に分け與へたが、何にもない時には何とも仕方がなかつた。春が來て仕事が見つかるか、又は食べる物なくて飢えそうになると二人は出て行つた。この人達が居ると私達子供には何だかお祭の様に嬉しかつた、と云ふのはこの住家すまがに一つの新しい世界が作られたからで。森での胃驗談やまた彼等がやつときりぬけたと云ふ追刺の話人殺しの話また、彼等が淋しい森中の居酒屋で食べたと云ふ生肝いんぎまの血の滴るのを油で揚げたものの話



または彼等が最後に人間の手の指足の指を井の底に見出したと主張する、かうした話を聞かせて呉れた。オールの妻は人生の重荷(生活の問題)をさすがに夫ほど軽くは考へてゐないので、この氣焰萬丈の食客を大層嫌つた、また、この食客は豚の脂肪が煙突の所にブラ下さつてゐる間は(註、脂肪を乾燥させるために斯く爲す)食物のある間は——出て行かないと云ふ事も知つてゐたから。でも私の母の所へ来て心行く斗りに愚痴をこぼし胸襟をひらいては、先づ慰められてゐた。それで私達に對しては誠に機嫌よく、夏時、都合さへよければ、屢々、赤や白の草苺を呉れた。それとても彼女がある吝嗇な女友達から泣く様にして貰つたものであつた。それでも私はこの人の餘り近くへ行かない様にしてゐた、と云ふのは外でもない、傍へ行くと必要あるごとに私の爪を缺んでくれるこれは全く私には神經の末稍までクスグツタイ感じを伴ふので非常に嫌ひであつたから。

またこの妻君オールは聖書を熱心に讀んだ、そして私が自分一人ではよむ様になるズツ前にこの人からこの氣味のわるい本の最初の強い、否恐しい印象を受けたのであつた。それはあの舊約にあるエレミ

ヤの恐しい場所を讀んで聞かせてくれた即ちこの怒れる豫言者が、「母親が非常に怒つたその時には自分の子供達を殺してそれを食べてしまふであらう」と豫言したといふ文句であつた。私は今も思ひ出すがこれを聞いた時には全くこの句がズツする様な恐れを吹き込んだ、勿論この時私はこの話が過去にあつた事が、未來に起る事か、或は遠くエルサレムに關する事か、又は私の村のウエツセルブレンに就ての事か、そんな事は少しも解らなかつた。が、しかし兎も角も當時私自身は子供であり、又一人の母を持つてゐたので。

日頃受持つてゐる子供を眼の前にチラ附かせながら此の「わが幼時」を讀んで居りました時、此處に書いてある子供は、國も時代も凡べての風俗習慣制度も異つた事情のもとにあると云ふ事も忘れて、私はたゞ興味を覺えました。ヘツベル一流の皮肉に、滑稽に、噴飯させられながらも此處に含まれてゐる眞理に深い共鳴を感じました。(紹介子)

# 幼稚園教育學講義

|| 神戸に於ける講演 ||

文學博士 谷本富述

## 第六章 簡單なる心理實驗色々

心理學は讀むものにあらずして實地に研究するものである。その研究法には種々ある。

### 第一、觀察

第二、問題を出して答をきく 幼兒にはこの法は不適當である

第三、實驗 幼兒に對して出来るや否や。幼兒教育を完全なる科學的のものとすれば實驗が出来なければならぬが此の實驗には種々の素養がなければならぬ殊に數學が必要である、しかし複雑なる心理状態を成るべく簡單なる元素に還元して一定の方法を施すことが出来るから必ずしも高等なる數學を借らなくとも出来る、其案内としての一つの書物は Dr. D. Starch の「教育的心理學に於ける實驗」 Experimentum Education Psychology である千九百十一年に出来た氏はウキスコンシン大學教授である

この實驗法は何等高等教育のない人でも出来る。從つて全體として餘りつまらぬ書物ではあるが今後の幼稚園の保姆となる人は少くも此位の科學的素養があるならば興味が出て來ると思つて御話する。殊に面白いのは自分が自分を實驗し得る點にある先づ其實驗目録を示さう。

一、個人的差異 二、視覺の試驗と缺點 三、聽覺試驗と缺點 四、心象 五、學習の試練失敗 六、學習の進歩 七、同上つゞき 八、學習の移轉 九、聯想 十、統覺 十一、注意 十二、記憶 十三、仕事と疲勞

(第一) 個人的差異

劈頭第一に此事を擧げたのは非常に我が意を得て居る、しかし内容に見るものがない。總じて實驗的に研究せんとするには問題が必要である、それには材料がある、次に手順がある、次に結果が出る、否結果が出て完全の實驗ではない、これを整理し

なければならぬ。そこで本章の問題は

第一問、各人に於ける心の能力の上の相違の性質と分量を知ること。

第二問、如何なる程度迄一方面に於ける心の能力が他の方面に於ける心の能力と伴ふか

第三問、心の能力を測量するに何か簡單で正確な方法はないか

一、記憶 二、文字單語の知覺 三、觀念聯合の支配の仕方 四、數の能力。

一、記憶 實験者が殆ど關係ない事を讀みて後これを論せしむ、直接記憶の範圍如何は分らう。

二、文字、單語の知覺 單語を多くかいてある中で一定の文字を消さす。

三、觀念聯合の支配の仕方 一、反對試驗 二、綱目試驗

反對試驗とは紙に單語を書いて置きこの單語と反對の單語を書かしむ。又綱目試驗とは例へば、犬といへば哺乳動物と書かすが如し。

四、加算と減算 其の誤りの數と時間とを檢べる以上の中幼兒に使用し得るものは記憶の範圍、觀念聯合の二つの試験であらう。

(第二) 視覺試驗

一、遠視と近視 二、亂視 三、斜視 四、色盲

(第三) 聽覺銳敏の度

一、時計法 二、ささやき法 三、一種の音響試驗器を用ふ(音の高低辨別を測る)

右二と三とは悉く實験心理に入るべきものかどうか不審である。自分は尙味覺嗅覺觸覺を入れる方がよろしいと思ふ。

(第四) 心象  
一、心象には種々の型があるが其一つの型が如何なる割合に表はれてくるか。

二、ある刺激に對する明瞭の度を計ること。

一、これを測ることはむづかしいが、簡單なる方法は型の度數を見るのである。方法、片方に名詞、形容詞、動詞をかけた他の方にこれに思ひ浮ぶものを書かしむ。例へば花といふ詞を見て赤いといふ色の浮ぶ人と、形がうかぶ人と春風に咲いて散るといふ事を思ひ浮ぶのと種々の心象が違ふのである。心理學では大體之を四つの型に分つことを得る。

一、視覺型 二、聽覺型 三、運動型

四、觸覺型 五、雜

但し是れは其儘では幼児には行はれ難いが工夫すれば應用は出來やう。

二、心象の明瞭度 視覺ならば櫻の花を思はせてこれに應ずる答を取ると明瞭度を知ることが出来る。

(第五)學習試驗失敗

本章以下は幼稚園でするのは少し無理かもしれぬ然しモンテッソーリ流の幼稚園ではぼんのはめはづし靴。紐の結び方等色々と練習さすから方法次第では出来るかも知れぬ。その法は☆圖の如き畫を鏡にうつしこれを紙の上になぞらせて其出入凸凹の度を見る。尤もこれはあまりよろしくない。

(第六)學習の進歩

一、如何程續けたらよろしいか又如何程休んだら

よいか、

一、選擇を加へたら進歩するや否や

今茲に學習に進歩の面白き實驗法あり、先づ直徑五分の圓二十五個を盲目で書かして五個毎に時間を測る、次に同じ圓を五個書いては目をあけて注意せしめ、次第にかくの如くして二十五個をかき時間を測るかくする時は前者は後者よりも進歩が遅いので

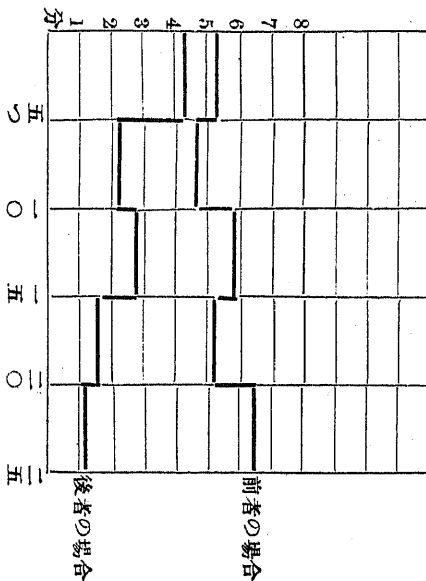
ある、次に其度を示す、

閉眼の場合

閉眼と開眼

I	5.2	II	4.6	III	6.0	IV	5.8	V	6.2
	4.6		2.2		2.8		1.8		1.2

次の如し



(第八)學習の移轉

學習の移轉とは或る一つの事を學んでこれを他に應用が出来るのをいふ。其實験の方法を示すと、

一、直接聽覺の程度をためす

二、佛語の單語を十種英譯をつけて暗記せしむ、

三、詩を暗記せしむ、

四、十個の綴りを順序正しく暗記せしむ、

先づ百八十種の伊太利語を英譯して練習せしめる而してこの練習をせぬ前と後とは如何なる相違なるかをしらべるのである、次に其結果を示すと左の通り多少の効果はある様だ

1. 直聽

6字

6字

2. 佛語

4分

2 $\frac{3}{4}$ 分

3. 詩

7分

5分

4. 十個の綴

5分

2分

(第九)聯想

これには色々の方法があるが極簡單にすれば、アルファベットを順讀と逆讀との時間を計るのでこれは吾が幼稚園にも適宜應用が出来る。

更に進んでは又外國語とその翻譯との聯想を見る方法がある。これは其の儘では一寸應用がむづかしいが併し漢語と俗語とは用ひて工夫すれば遣れやう斯くて聯想の由つて來る所を調べると或は最初の

爲か或は頻繁の爲か或は強度の爲か或は最近の爲かとをういふことで分つて面白い。

(第十)統覺

三種の問題を出して居る

一、心を意義的に見る

二、各人の過去の經驗の影響

三、其時々々に於ける連想の影響

第一に四種ありこれは幼稚園にて行ふと宜しい。

一、白紙にインキを一滴落して其にじみを子供に見せて何に見えるかをきく。

二、hofといふ英語に無い言葉をいつて何が頭に浮かぶかをきく。

三、畫さがしをさす、見つけるに要する時間及答

を見る。

四、印刷して文字らしくて文字でないものを如何

によむか尋ねて見る。

以上四つの方法で調べたらば心の意義的傾向は分かる。偕又過去の經驗の影響やその時々々の心の聯想状態は或る頭字と尾字とを書いてそれを埋めて一個の名詞と仕上げさせなるとすれば分かるといふが自分は今茲に一つ幼兒にも應用出来る方法をお話する

と、それは、或は夫の尻づけでも分かる、或は謎でも分かる更に進んでは判じものでも分かる。遣つて看玉へ案内面白からう

#### (第十一) 注意

これは主として注意の強度反映明瞭相殺の工合を見んとするので、單語と色とをカルタに印刷したもので遣る。單語は固より用ひられないにしても色ならば遣れる。又何か畫にしても好からう。

#### (第十二) 記憶

これには四つある

- 一、一部宛切つて習ふと全體を習ふとどちらが記憶し易いか：これは唱歌などで遣つて見玉へ
- 二、不精確なる反復の影響：これはカルタを分けさせて出来る。
- 三、暗記中は中止すること、

#### 四、意味あり系統のあると無いとの相違

#### (第十三) 仕事と疲勞

以上の事色々と詳論したいが何分時間が無いので略述すると：先生大急ぎにて筆記を擱く。

借前の時間にはスタルクの書物に就いてザツトお話したが、お分かりに成り難かつたらうと竊に恐縮

する。ところで該書は元來只知的の部分だけを測定せんとするのだが今の心理學では寧ろ情意の方面を測るのでなければいけぬ。幼兒には情意の測定が必要である。少々むづかしい

#### 一、發表について測る、

例へば大聲を聞いたときの種々の態度を見る。又お伽噺についての喜怒哀樂を見る。之を精密にすれば寫真を撮るがよい。情緒は顔付や呼吸に凡て現れる。溜息をするのは注意深きと共に感動性がつよい又分泌液即ち涙、よだれ、大小便、かわきの状態でも見られる。

#### 二、握力計、

これも情意の様相がわかる。只自分獨り握らすのを競争さすのでは大なる違ひを生ずる。例のスタンレーホールは一九〇七年に『兒童生活の諸相並に教育』Aspects of Child Life and Education といふ書を著し、一九一五年に再版された。これは感情方面の良書で八つの實驗が掲げてある。

第一、學校入學時に於ける子供の心の内容 第二、空想と眞理 第三、好奇心と興味 第四、砂盛物語 第五、人形研究

これは同氏の弟子なるエリフ嬢が初めて研究したもので（一八九六年）其内容を示すと、

一、人形の材料 二、人形の心的性質 三、

人形の印象 四、人形の睡眠 五、人形の疾

病 六、人形の死 七、人形の埋葬 八、

人形の名 九、人形の行儀 一〇、人形の衛

生化粧 一一、人形の家族 一二、人形の友

人 一三、人形の結婚 一四、人形の學校

人形の取扱方が人種の歴史がわかる、我等の子供を取扱ふと同じ心理状態である雛祭などに就いても實驗すれば妙だ。

第六、所有の心理、蒐集本能

第七、庶物崇拜

第八、田舎の町に於ける男子の生活

人形の研究其他色々の研究は人種學的に感情の發達を見ることが出来る。この書は十分精讀研究の餘地がある。然り而して一步を進めて云ふとスタンレーホール氏の人種の經驗反復には近頃フロイド氏によりて一層補はれて居るとも云へやう。

フロイド學說の参考書を次に擧げると『心理研究』には文學士久保良英氏のお伽噺と性慾の話が載つて

居るが尙は一冊の書物が出来るさうな、これはフロイド説によつて居る。精神分析學といふ事をやかましくいふのは全くフロイドである。我々の心の影には性慾が働いて居る子供と乳母とは性的關係がある虫の好きづきは又性的關係なりなど云ふ様である。

フロイド Sigmund Freud は、奥國の醫師で一八八一年に初めて精神分析 Psychoanalysis の事を云ひ出し一九〇〇年に『夢の解釋』といふ書を出した即ち潜在して居る性慾の發現なりといふに歸する。それが一九一二年に『性の研究』を出し一九一四年に『日常生活の心の病理』を著した而して一九一〇年にアメリカのクラーク大學の創立二十年祭にわざわざフロイド氏を招いた時氏は『精神分析學の起原と發達』について演説された。

米人エリット Carat といふ人は近頃『精神分析とは何ぞや』 What is psychoanalysis? (一九一七)といふ書をかいたこれを読むと一寸わかる。又、醫學博士榎保三郎氏著『性慾と精神分析學』も昨今出版された。

つまり幼児教育はフレーベルの神性に始まり、ベルグソン氏の説及フロイド氏の性慾精神分析學に至

つて一變するがそれは進歩である。即ち幼稚園教育學は次の三方面が揃はねばいけぬ、

一、歴史及學說、二、哲學的方面、三、心理方面、以上の六回の講義はこの形式によつてお話しつたつもりだが只固より案内記に過ぎない書物にすれば五六百頁の書幾冊にもかき表はされるものであるいづれ他日更に詳細にお話する時があらう靜聽を謝します。(文責在記者……神戸市楠幼稚園木村りん)(此項完)

○文部省夏期講習會の狀況

前號豫告の通り文部省保姆講習會は八月一日より九日迄東京女子高等師範學校に於て開かれました。連日の炎暑にも講師諸先生を始め講習員一同の熱誠は驚く許りでした。殊に遠く臺灣や支那營口よりわざわざ東上されし方もあり約八十名を數へました。

また本會幹事土川先生には特に講習員有志の切望をお容れ下さいまして酷暑の折にも拘らず毎日午後律動遊戲を御教下さいました。

○編輯室より

前號に申上しました通り本號から一頁の字詰を随分増加致す事になりました。折悪しく各印刷業組合は印刷料の三割値上げを宣言致しました。紙價の騰貴も新聞に傳へられて居ります。本誌もこの時代の潮流にどうでもかうでも卒さして行かねばならぬ譯でございます或は頁數は從來より幾分減する事もありませう。しかし他方に字詰を増加致しましたために内容の充實は果たせる事になります。此度の頁の凡そ四十頁は從來の五十頁にあたる割合になりますから。

ガードの下で

甲武線のガードの下で

子供が大勢遊んでゐる。

日蔭に集る子供達

二手に別れて戦あそび、

ふち／＼歩きの二人の男の子

わけも分らずたゞ真似ごと

フト行き會つて手を組み合せ

「おい、負けるか勝つか、どうするのだ、

負けると云ふとおまへの組は

まけてしまふぞ、サアどうだ。」

聞かれた子供は、勝つよ、勝つよ」

まはらぬ舌で斯う云ひ合つて

力をこめて両手をあげて

「勝つた勝つた萬歳!!」

(八、八、二二)



本誌は最も平易な、最も教育的な子供繪雜誌たるべく苦心して居ります

# コドモ

編輯顧問 高嶋平三郎先生

幼童  
雜誌

# 良友

本誌はコドモの兄様姉様に當り、小學生の讀物として最も適當な雜誌です

近來子供雜誌や繪本類が非常に多くなつて、既に二三十種に達してゐる。

世の父兄諸氏は、この多くの同種中、はたして何れを子弟の爲に選ばるゝであらうか。單に玩具と見做して、その選擇を慢然兒童の取捨に一任して置いてよいであらうか。

發行所 東京市小石川區 東林町五十七番 石川區 小石川區 電話 六一八二 六一九二 六一八二

ドコモ社

# 謹告

世界大戰亂勃發以來物價の變動極りなく爲に四年間定價表を發行不致一度假定價表を作りて一時を糊塗致居候處愈々平利克復の曙光に接し本年に入りては物價漸落の模様相見え候間本年早春定價表の作成に着手し爾後の物價低落を見越して昨年よりは約二割若しくは三割方の廉價を以て本年四月保育用品目錄を發行致し候處豈圖らんや物價は下落せざるのみならず却て漸騰の趨勢を示し殊に甚だしきは御承知の如く職工の工賃にして四割乃至五割の値上の止を得ざるに立ち至り申候爲に定價表發表後間もなく甚だ御氣の毒に存候へ共定價參割の値上仕候併し是れ大約昨年の定價に復したる儀に付不惡御了承被下度尤も品物は決して粗製に流れず飽く迄責任を以て精選可仕候間倍舊の御用命偏に願上候

右謹告仕候也

東京市麴町區三番町

保育用品製造販賣

フレールベル館

電話番町二九〇九  
振替東京一九六四〇九

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可(毎月一回一日發行)

幼兒教育 第十九卷第九號

大正八年八月廿七日納本濟  
大正八年九月二日發行

印刷所

凸版印刷株式會社本所分工場